



C. 〈コンセプト編〉

 株式会社ミュカンパニーリミテド  
MU COMPANY LTD.

 有限会社池田潤建築設計工房

## □ ミュー MU フローティング FLOATING タワー TOWERの基本コンセプト

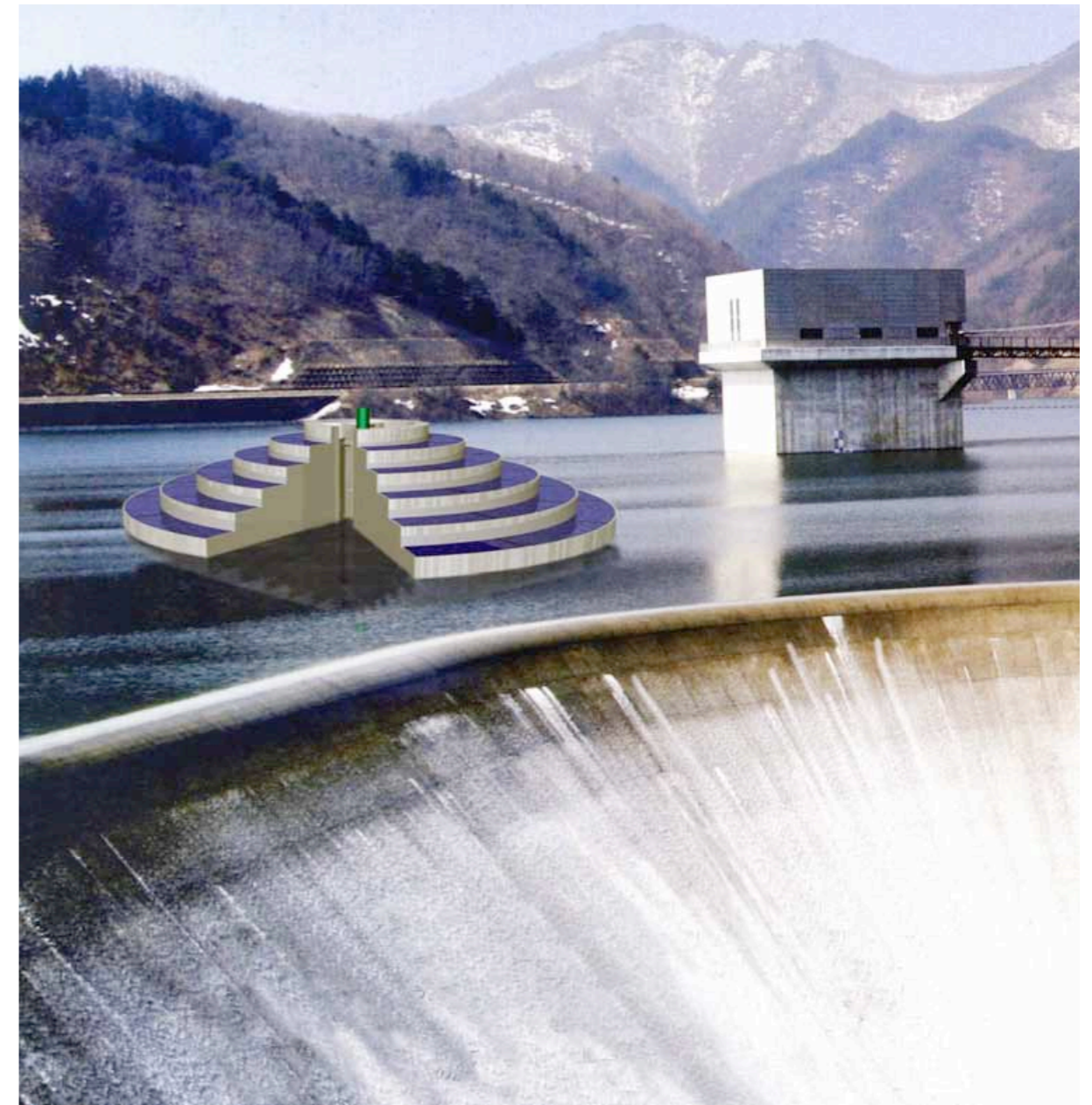
21世紀の水環境問題における最大の課題は、水が循環しにくい湖沼や閉鎖性海域などでの水質改善であるといわれています。近年、河川などの水質改善は進んできましたが、湖沼などの閉鎖的な広い水域での水質改善に関しては、多大なエネルギーコストが必要となるために効果的で有効な方法が難しいとされてきました。

「MU FLOATING TOWER（ミューフローティングタワー）」は、このような湖沼やダム湖や閉鎖性海域などの広域水質浄化に有効な装置として開発されています。太陽光発電による自然エネルギー活用と、水の自重落下による「滝効果」を基本としているため、省エネルギー、メンテナンスフリー、コンパクトな装置として考案されています。また、当装置は化学的な処理や動力的な負荷を加えないため、生態系にも影響を及ぼしにくく環境に優しい浄化システムです。

同時に、製品開発にあたっては単なる技術的装置としてだけでなく、私たちの暮らしの背景を支えてきた歴史や文化や信仰などのエッセンスを形態や機能や思想に取り込むことに努めています。

それは次の3つの基本コンセプトから成り立っています。

- A. 太陽と龍蛇の結合           : 形態・イメージ
- B. 円相と螺旋のシステム       : 基本思想・機能
- C. 滝の塔                       : 浄化システム



MU FLOATING TOWER のイメージ図

## □ 基本コンセプト A：太陽と龍蛇の結合

### 1. 古代マヤ：クukulカンのピラミッド

メキシコ、ユカタン半島の北部中央に古代マヤ文明の遺跡であるチチェン・イツァ遺跡があります。この遺跡は9世紀から11世紀頃にかけて栄えたといわれていますが、そこに「クukulカンのピラミッド」と称される高さ24mのピラミッド（神殿）が残されています。

「クukulカンのピラミッド」では春分の日と秋分の日の日没近くになると、太陽の光によって斜面に続く階段側面に蛇の胴体が現れ、最下段にある蛇（クukulカン）の頭部と一体化します。まさに春分と秋分という特別な日にこの神殿に大蛇の神が降臨するわけです。

春分と秋分に大蛇が姿を現すのはこの日が1年の暦の節目であり、この時期を境にして雨期と乾期が分かれ、トウモロコシなどの種蒔きをするためだったといわれています。

「クukulカンのピラミッド」は太陽神と龍蛇神という古代からの人々の信仰の姿を見事に具象化し、形態化しています。それは単に信仰のための祭壇であるばかりでなく、時を告げる装置でもあり、神話というドラマを生み出す舞台でもありました。

最初に蛇体の一部が照らし出されてから最後の部分が消えて見えなくなるまでの3時間余りの時間の中に、人類の知恵と技術の粋が凝縮されています。



クukulカンのピラミッド：メキシコ

## □ 基本コンセプト A：太陽と龍蛇の結合

### 2. 東洋：インドのナーガと中国の龍

東洋各地でも古代から龍蛇が姿を変えながら、人々の信仰の根源的存在として祀られてきました。

古代インドではナーガと呼ばれる巨大なコブラが神聖視されてきました。ナーガは一つの体から多くの頭が分かれた姿をしており、七頭一身や九頭一身の形で表されています。

中国の龍の観念ももともとは蛇から生まれていますが、次第に独特の仮想生物としてその信仰を深めていきました。古代中国の青銅器や銅鏡などには龍の紋様（龍文、蟠龍紋）が様々なデザインにデフォルメされながら用いられています。右の写真にある「蟠龍紋盤」は古代中国・商の時代晩期（BC 11～12世紀頃）のものとみられる水器ですが、水を満面と注いだその器の底に、とぐるを巻きながら睨み上げる龍の姿が浮かび上がります。龍は水の神として象徴化されてきました。それはインドのナーガも同様で、雨や治水の神としても崇められます。

また、台湾のパイワン族にはその創世神話として「太陽と百歩蛇」の神話が伝えられています。そこでは太陽が山頂に産み落とした赤白の二つの卵を蛇（百歩蛇）が孵化させ、そこからパイワン族の祖先が生まれたとされています。太陽神と山の神と蛇神のつながりを伝える神話の一つです。



蟠龍紋盤：中国（商代晩期）

## □ 基本コンセプト A：太陽と龍蛇の結合

### 3. 日本：「太陽の道」と龍蛇神

※  
古代の日本各地には「太陽の道」ともいわれる特別な方位軸が存在して  
いました。「太陽の道」とは春分・秋分・夏至・冬至などの暦上の節目の  
日に太陽が昇り降りする方位を結んだ軸線を指しますが、これらの道の上  
には龍蛇神にまつわる神話や伝説を伝える古代聖地が数多く並んでいます。

#### ①. 三輪山の倭迹迹日百襲姫神話

『日本書紀』によれば、崇神天皇の時代に倭迹迹日百襲姫が大和の  
三輪山に祀られる大物主神の妻になったところ、大物主神が小蛇で  
あったことに驚き、亡くなったと記されています。

#### ②. 須佐之男命の八岐大蛇退治・出雲大社の肥長比売神話

出雲には須佐之男命が櫛名田比売を救うために八岐大蛇を退治した  
船通山（鳥髪山）があり、『古事記』には垂仁天皇の息子の本牟智  
和氣が出雲大社で結ばれた肥長比売が大蛇であったと記されます。

#### ③. 白山の九頭竜神伝説

白山の開祖泰澄が山頂池で目撃した九頭竜王は十一面観音に変化し  
ました。夏至日の出方位に位置する戸隠山にも九頭竜神伝説があり  
ますが、白山は伊勢の真北、富士山の夏至日没方位に位置します。

#### ④. 諏訪湖のミシャグチ神伝承

諏訪湖には太古からミシャグチ神といわれる大蛇が棲んでいるとい  
われてきました。諏訪湖は真南に位置する静岡県御前崎の池宮神社  
にある桜ヶ池とつながっているという伝説が残されています。



「太陽の道」と龍蛇神

※「太陽の道」：知られざる古代一謎の北緯三四度三二分をゆくー 水谷慶一著（NHK出版）参照

## □ 基本コンセプト A：太陽と龍蛇の結合

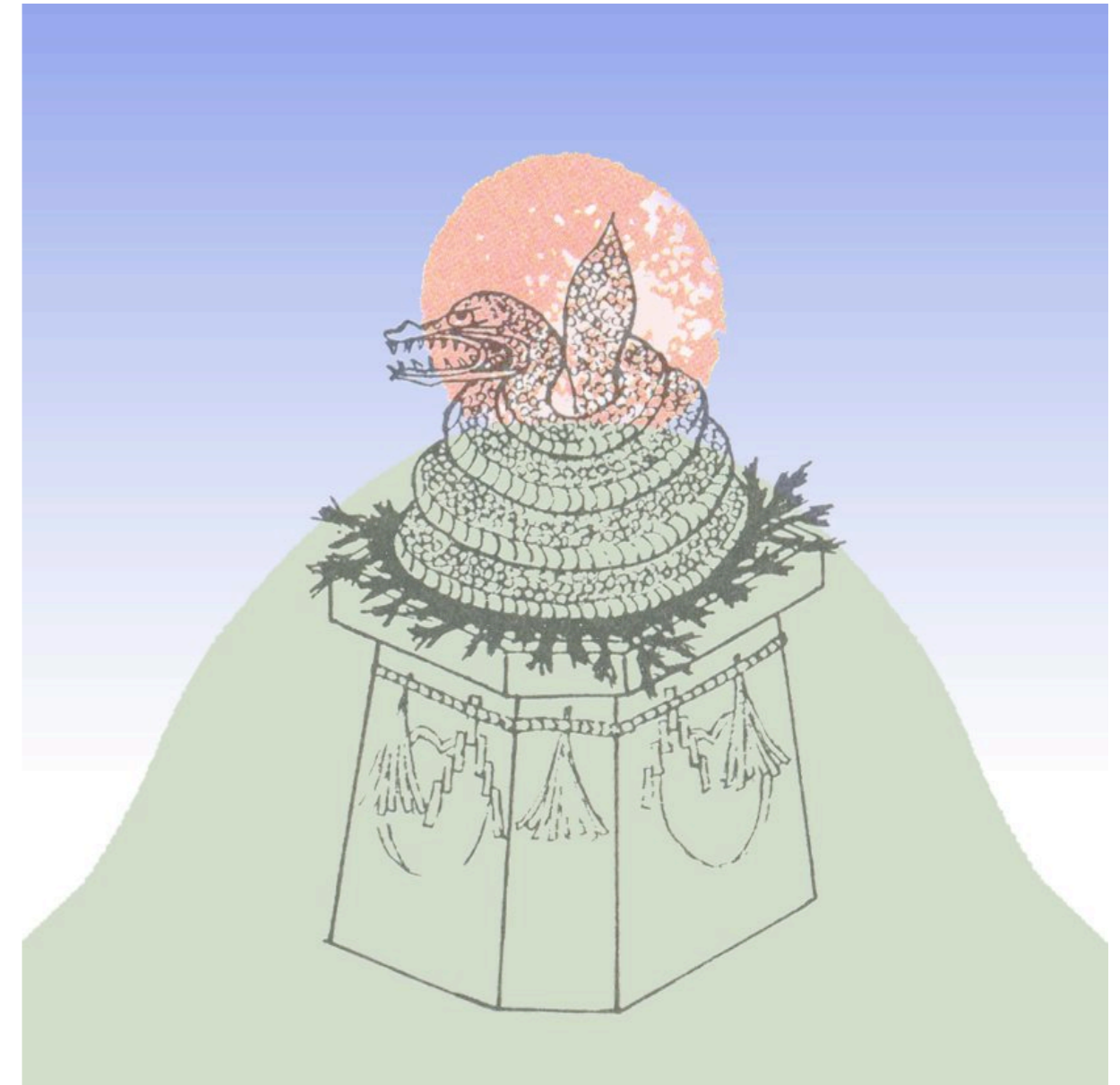
### 4. 太陽と龍蛇の結合

古代の人々の暮らしの根底には洋の東西を問わず普遍的な信仰の対象として、太陽神と龍蛇神が祀られてきました。しかもこの太陽神と龍蛇神は多くの場合において重なり合い、補完し合う関係にあったようです。

私たちが正月に飾る鏡餅かがみもちも蛇の古語である「カカ」に由来するともいわれ、橙だいだい（ミカン）と餅が積み重なる姿は太陽、山、蛇を祀る姿に重なります。マヤ文明の「ククルカンのピラミッド」にも象徴されるように、古代人たちは太陽と龍蛇の姿を見事に重ね合わせながらデザイン化し、文化や文明として残してきました。近代化の果てに多くのものを見失いつつある現代人は、もう一度彼らが残してきたものの本質について捉え直す時期に来ているようにも思われます。

「MU FLOATING TOWER：ミューフローティングタワー」はとぐるを巻く龍蛇の形をデザイン化し、太陽光エネルギーを利用する太陽光発電パネルを装備することで、太陽と龍蛇を視覚的、機能的に結合させた水質浄化装置です。

ミューミキサー<sup>®</sup>をタワー状に重ね合わせて、水の自重落下エネルギーにより空気と湖水を混合する水質浄化を行うため、省エネルギーかつメンテナンスフリーの画期的な浄水システムを実現します。



太陽と龍蛇の結合

## □ 基本コンセプト A：太陽と龍蛇の結合

### 5. 龍神再生

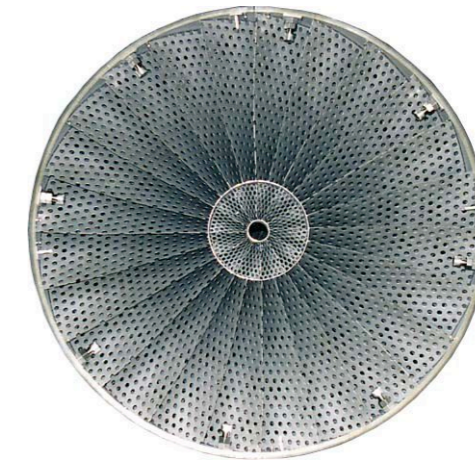
日本各地には古代から「龍神伝説」が残されてきました。龍神は龍宮に住むとされる伝説上の生き物で水の神や海の神として崇められてきました。龍神が宿るとされる湖水には龍宮につながる抜け穴があるといわれる場所も多く、これらの抜け穴を通して龍神が豊かで清い水を湧出させると信じられてきました。

ダム湖をはじめとする湖沼の水の汚れは近代以降の自然環境の破壊とも深く重なり合っています。そして、それらの近代化や開発と共に、長年わたって民衆の間で伝えられてきた「龍神伝説」も次第に私たちの暮らしの中から失われつつあるようです。

「MU FLOATING TOWER」の設置によって、これらの湖沼の水を再び浄化していくことが可能になります。そのことはさらには、失われつつある古代からの時間や伝承を再生するひとつの手がかりになることにもつながっていくのではないかと考えます。

水の浄化再生とはすなわち古代へとつながる「龍神再生」でもあります。

MU Static Spiral Perforated Wings  
(MU-SSPW)



MU FLOATING TOWER のイメージ

## □ 基本コンセプト B：円相と螺旋のシステム

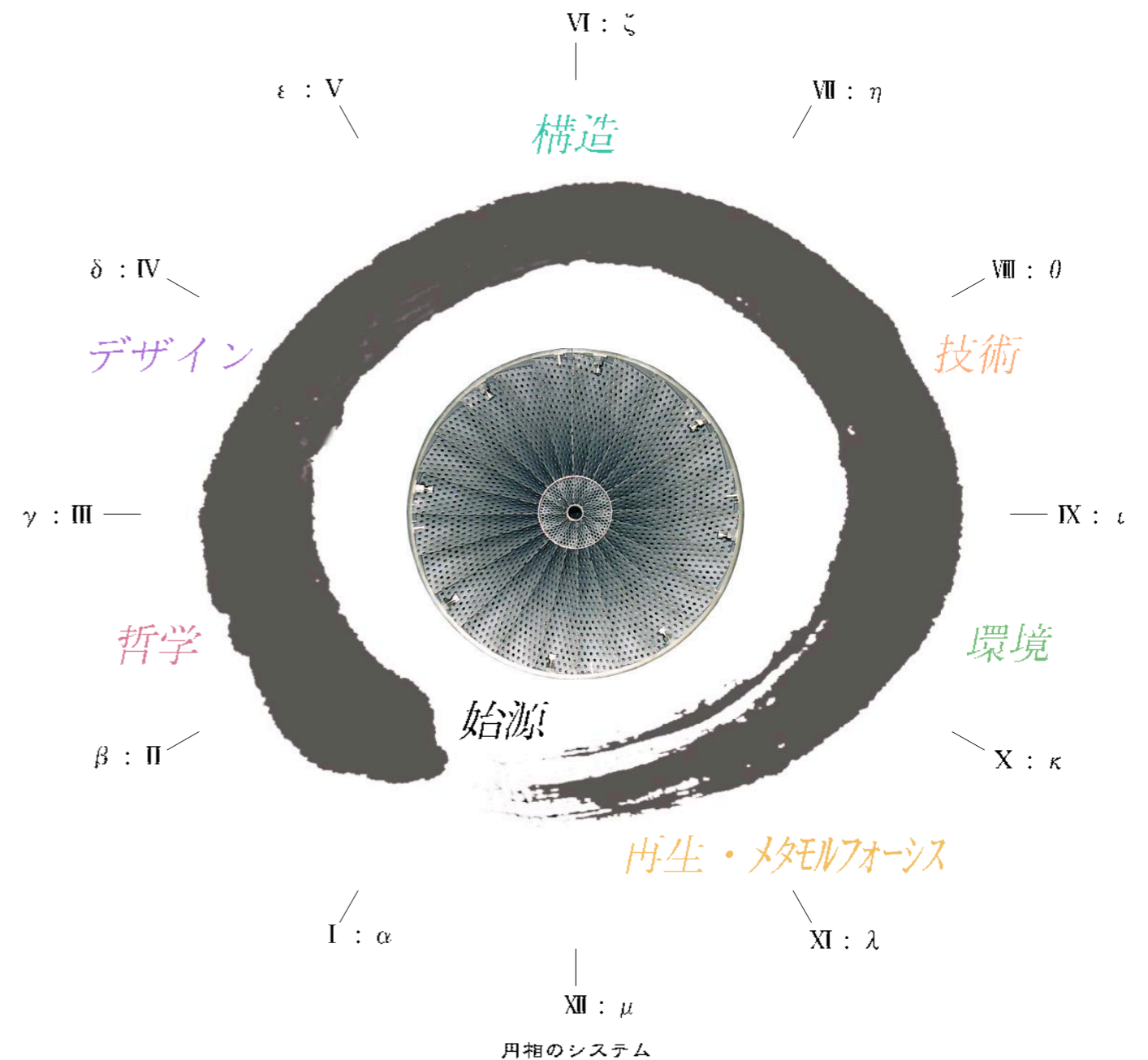
### 1. 円相のシステム

禅における書画の一つに「円相図」があります。「円相」には宇宙の絶対真理が込められているとも、「無」の境地が込められているともいわれています。円還する時間と空間の中に全てが存在し、それは同時に、瞬時にして「無」へと帰していきます。

また、円相を描く禅僧の筆の運びをたどる時、そこには始源の発生から哲学の創造、デザイン・構造・技術の創造、環境への同化、再生・メタモルフォーシスへと続く生命や生産や歴史の流れとしてのシステムを汲み取ることも可能です。

「MU COMPANY：ミューカンパニー」の企業理念の根本には、この「無：MU」の思想があります。行雲流水のごとく、宇宙の摂理に逆らうこと無く、自然の力を活かしながら無常の精神による製品づくりに努めています。

社名の「ミュー」はまた古代ギリシャ文字の12番目の文字「μ」にも由来しています。「μ（ミュー）」は時計の針でいえば「XII」に相当します。12進法の世界では「XII=μ」は終わりの数字であると同時に始まりの数字でもあります。



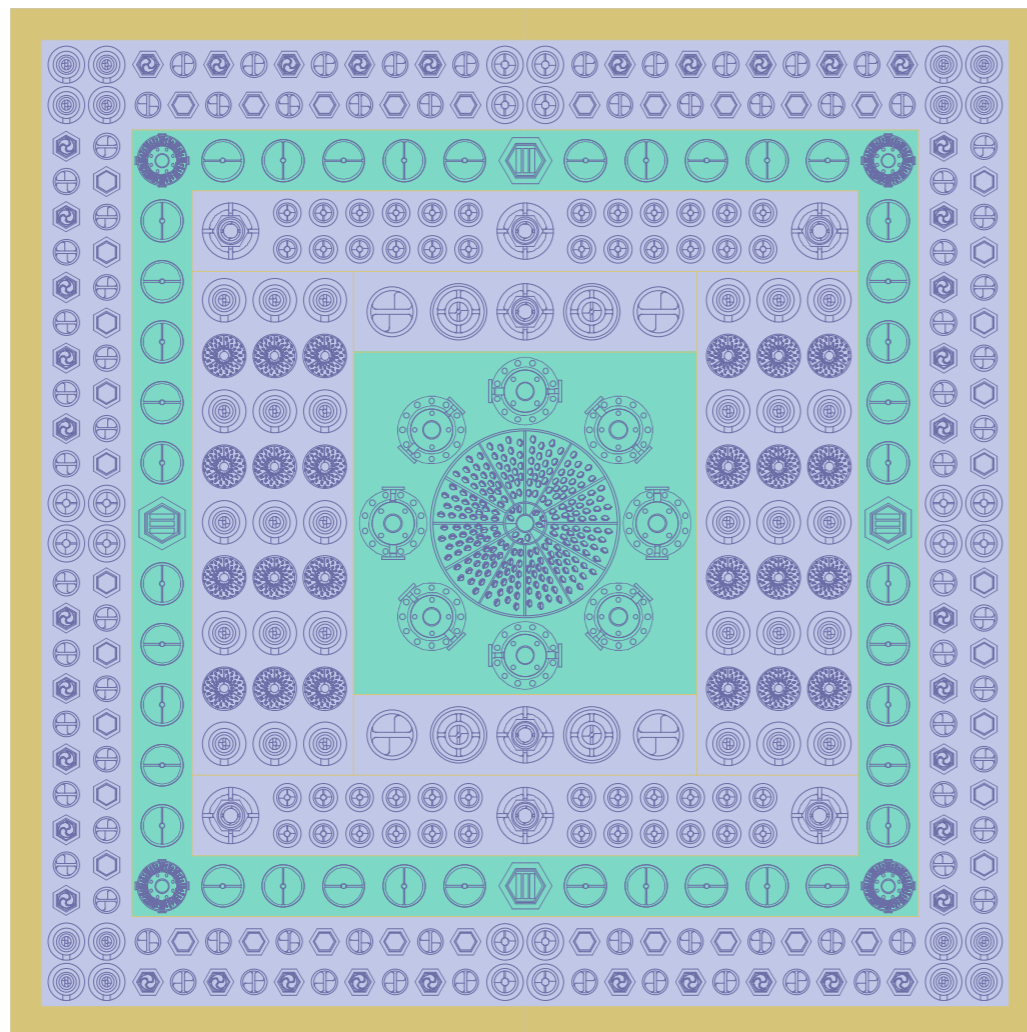


## □ 基本コンセプト B：円相と螺旋のシステム

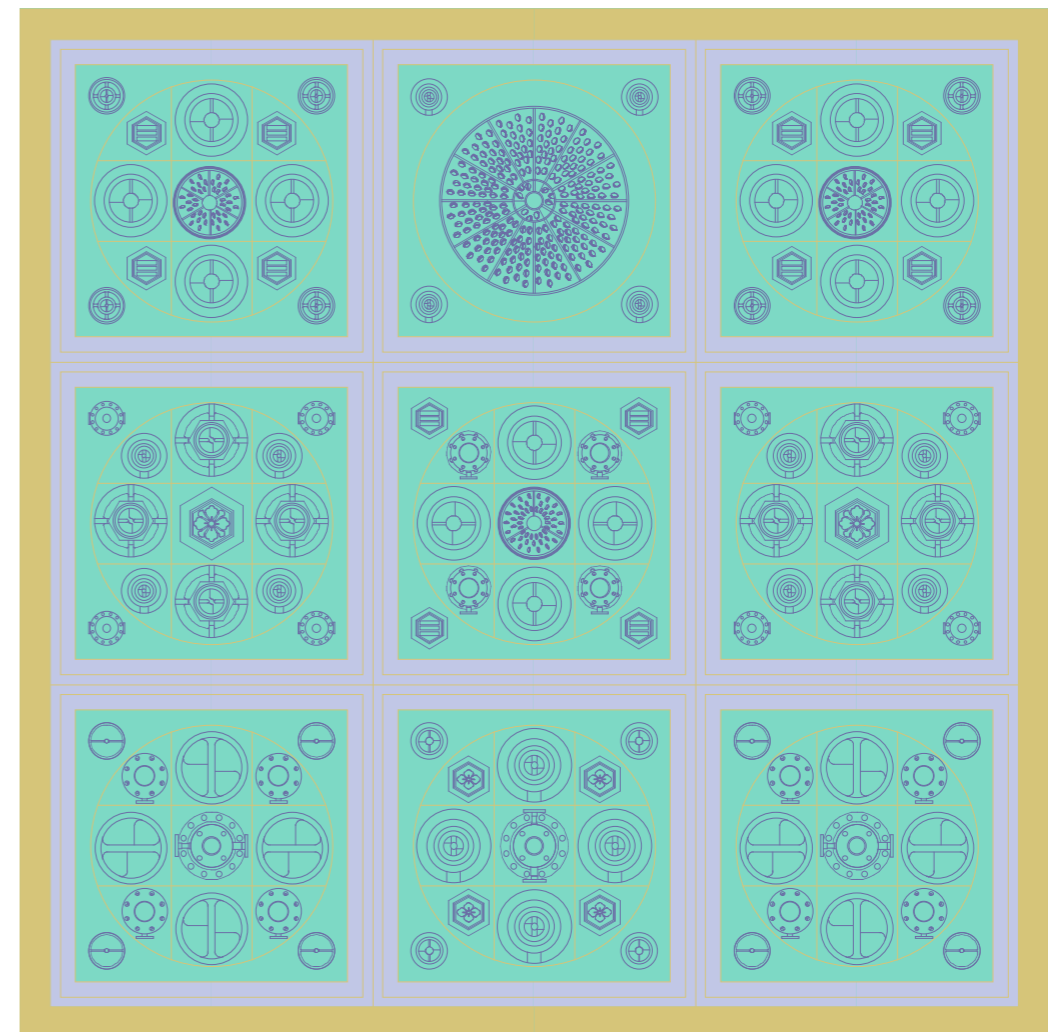
### 2. 水の曼荼羅

曼荼羅 [マンダラ：mandala] もまた「円相」と同様に、元来「円」を意味する言葉です。仏教（密教）では曼荼羅の中に全宇宙が含まれると考えられています。日本では平安時代に、空海によって「胎蔵界曼荼羅」と「金剛界曼荼羅」が伝えられました。

ミューミキサー®には様々なタイプがあり、形状や大きさも多種に及んでいます。曼荼羅が世界の無数の汚れや穢れを払拭するために表象化されたように、ミューミキサー®もまた、人の生命の根源となる水を浄化する役目を担っていきます。



ミューミキサー®による胎蔵界曼荼羅



ミューミキサー®による金剛界曼荼羅

## □ 基本コンセプト B：円相と螺旋のシステム

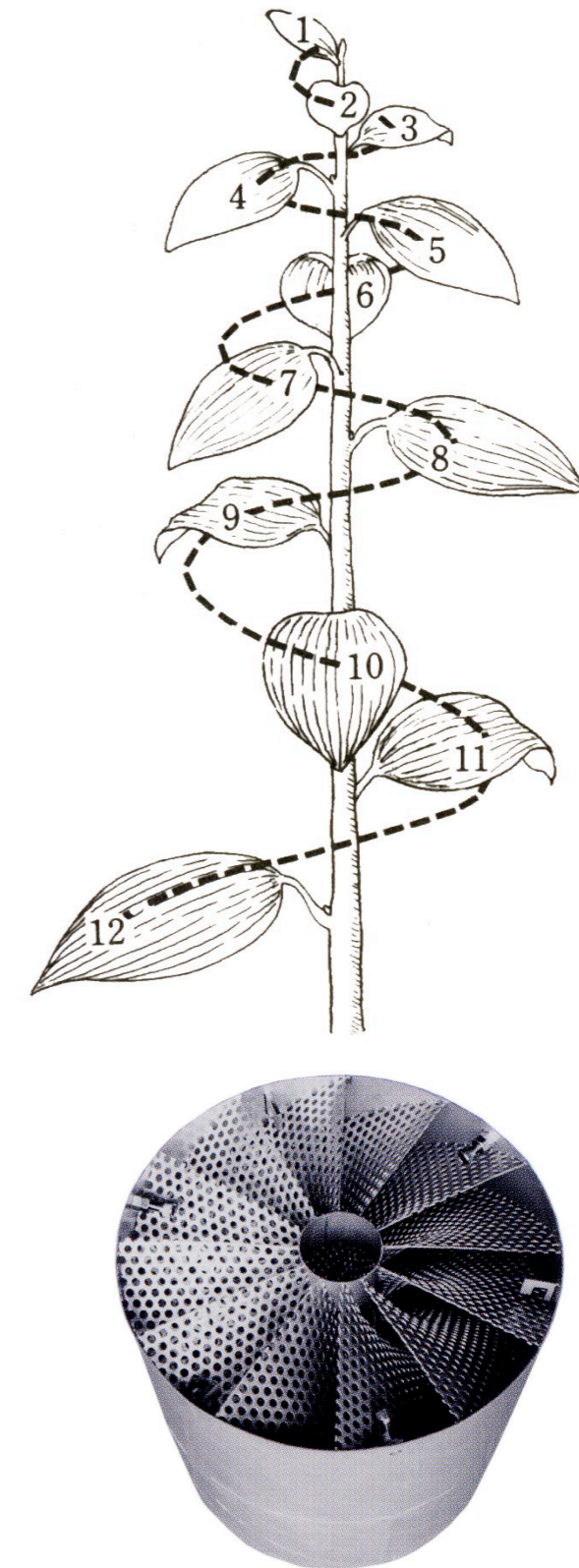
### 3. 螺旋のシステム

生命をつかさどる遺伝子が二重螺旋構造によって成り立ち、植物が螺旋状に葉をつけながら生長し、銀河系宇宙が渦巻き形状を成しているように、螺旋のシステムは生物や自然宇宙の基本構造になっています。

『古事記』や『日本書紀』が記す国生みの神話も、イザナギとイザナミが柱のまわりを互いに廻りあうところから始まります。また、中国の創世神話では伏羲・女媧の男女神が螺旋状にねじれ合う姿で表現されています。このように、始源神話の始まりも螺旋状に渦を巻いた時空間の中から生み出されています。

ミューミキサー®は螺旋状にねじれた形状をした穴あきプレートは何枚も組み合わせて作られています。ミューミキサー®を通過する水は、螺旋状に渦巻く水の自然な流れを生み出しながら多孔部で細かく砕かれ、より多くの大気中の酸素を溶け込ませていきます。

螺旋のシステムによって自然と人工物が柔らかく融合し合います。



植物の螺旋構造とミューミキサー®

## □ 基本コンセプトC：滝の塔

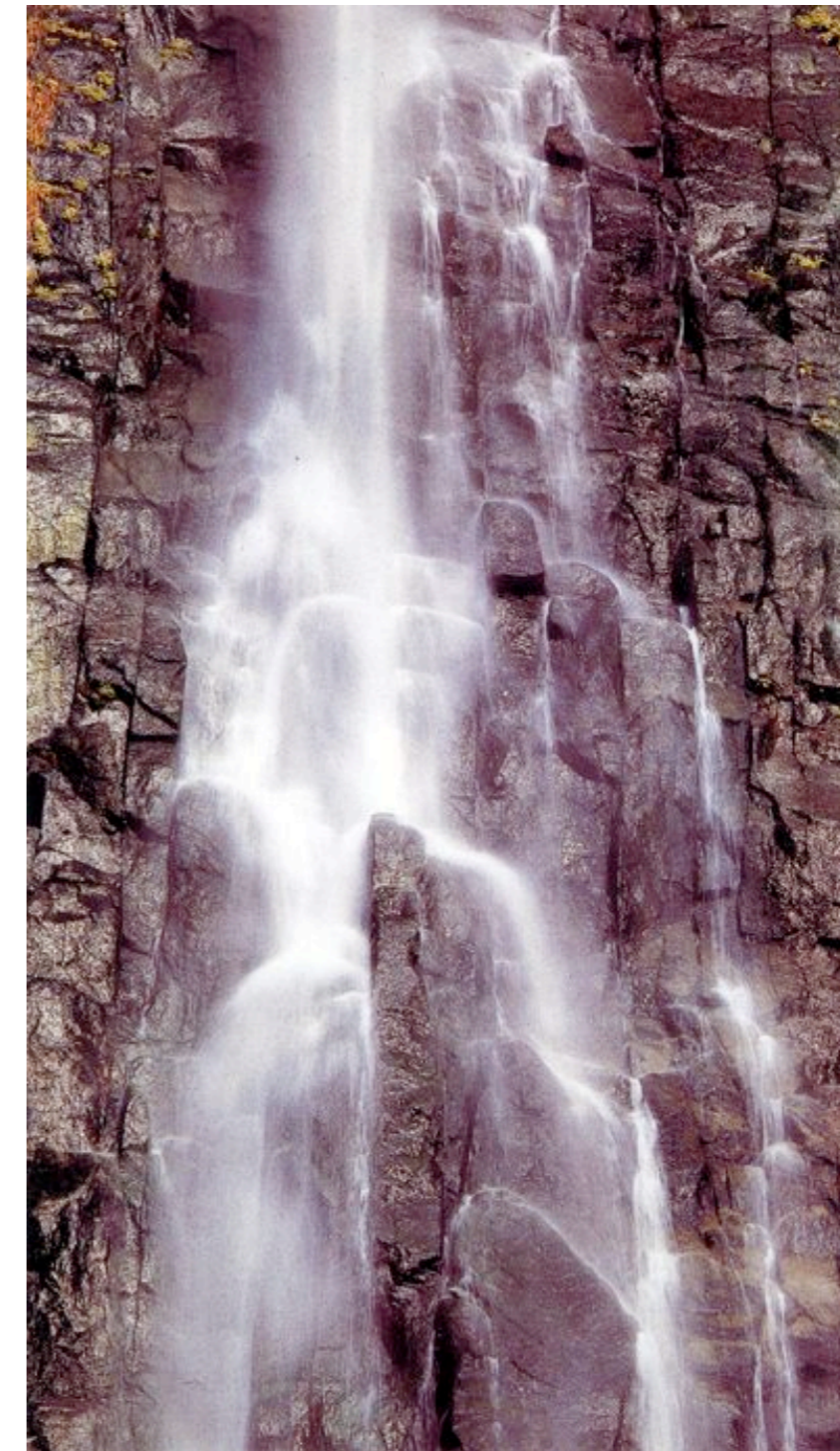
### 1. 滝の浄化力

フランスの作家、評論家であったアンドレ・マルローは那智の滝を訪れ、  
「那智の瀧は太陽のサクレ<sup>※※</sup>である。確かに滝は落下しているが、イメージ  
として同時に上昇している。その点においては立ち上がる杉の大木と  
同じである。」と述べています。

この那智の滝は高さ133mの落下高さと幅13mの銚子口（滝の落ち口）  
を持つ日本有数の大瀧です。その天空に近いところにある銚子口から解き  
放たれた水流は激しく岩肌につつかり合い、真っ白なしぶきとなりながら  
落下していきます。岩肌によって砕かれ周縁部へとはじかれた微細な水滴  
は細かい霧となって空気中に溶け込んでいきます。

重力に逆らわずに自然落下する水の勢いと、風に舞い、あたたかも天空に  
駆け上ろうとするかのような微細な飛沫の群れの動きは、マルローが語っ  
た上昇と下降という滝の二重性の姿を垣間見せます。

滝はこの水流と気流の合体によって浄化力を高め、清らかな水を生み出  
していきます。ここに滝が持つ浄化力としての「滝効果」の秘密が隠され  
ています。



那智の滝

※ アンドレ・マルロー (Andre Malraux) : 1901-1976、フランス人、ド・ゴール政権では文化相としても活躍した。

※※ サクレ (Sacre) : 聖なるもの

## □ 基本コンセプトC：滝の塔

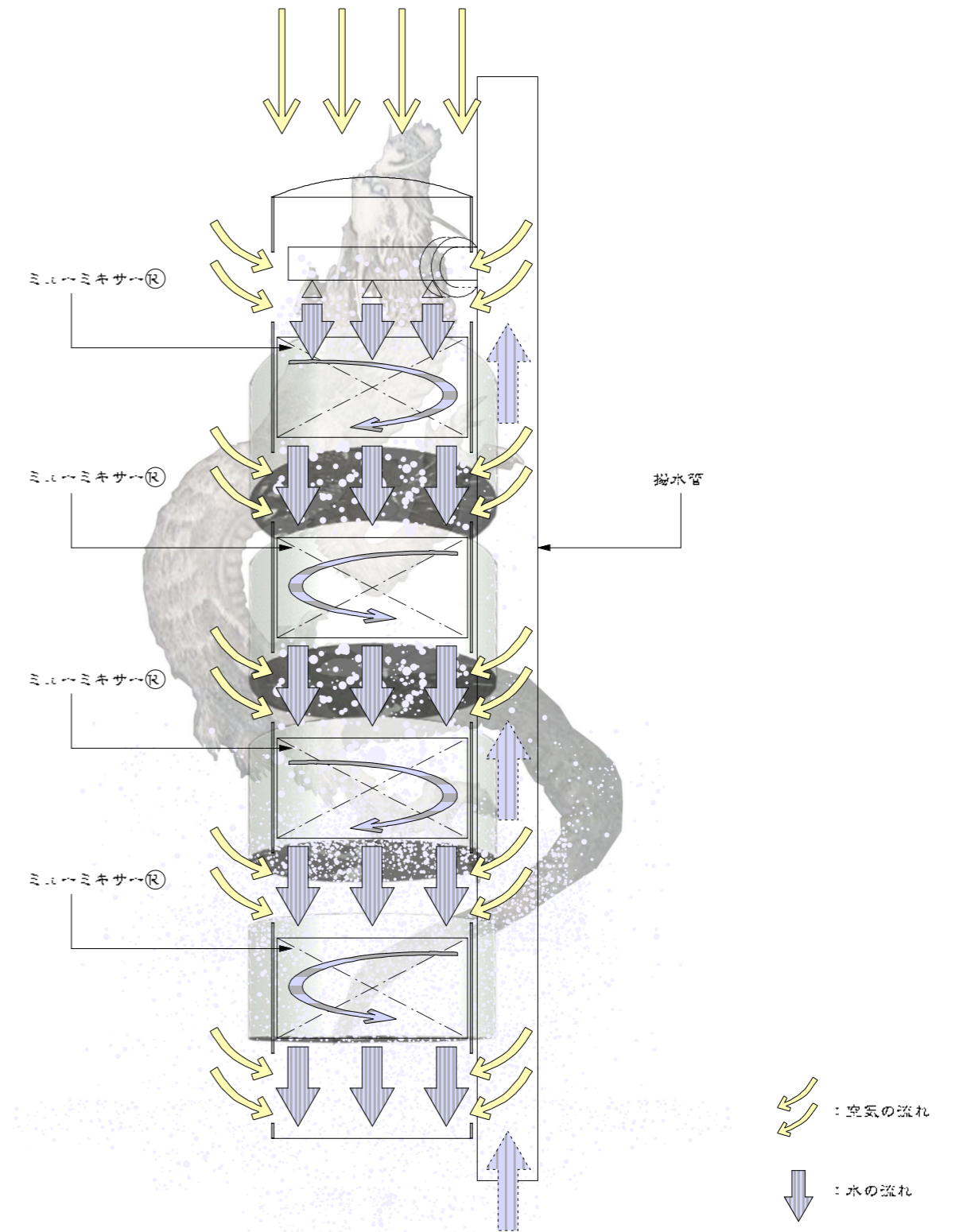
### 2. ミューミキサー®による人工の滝

「MU FLOATING TOWER（ミューフローティングタワー）」はこの自然の滝が持つ「滝効果」を最大限に活用しています。この装置内にはミューミキサー®を幾層にも積み重ねてあり、全体が塔状になっています。その上部から水を落とし込み、ミューミキサー®の中に水を通過させることで、那智の滝と同じような人工の滝を作り出します。

塔内ではミューミキサー®が螺旋と多孔のシステムによって水を細かく砕き、大量の酸素を水の中に溶け込ませていきます。ミューミキサー®自体は固定してあり、いわば自然の滝における岩肌の役目をミューミキサー®が効率良く果たしているといえます。

この工法は自然の重力落下エネルギーだけを利用した浄化システム工法なので無駄な負荷を必要としません。これからの省エネ社会にふさわしい工法であるといえます。

微細な飛沫を生み出しながら水を浄化していく姿は、ヘドロや汚泥などに汚れた湖沼に沈潜していた龍神が水しぶきを上げうねりを運びながら、再生し、昇天していく姿にも重なり合います。



ミューミキサー®による人工の滝のイメージ